

## 小学生を対象としたよさこい教材の開発

### Development of YOSAKOI Teaching Materials for Elementary School Student

近藤 貴施 , 今井 亜湖  
Takanobu KONDO, Ako IMAI  
岐阜大学教育学部  
Faculty of Education, Gifu University  
Email: s1027408@edu.gifu-u.ac.jp

**あらまし** : 小学校体育の表現運動の1つであるよさこい活動は、指導がしにくい、指導の仕方がわからないと感じている教師が多いことが明らかになっている。そこで、本研究では、よさこい経験のない教師でも、よさこい活動の指導ができる、小学生を対象としたよさこい活動のための教材開発を行なった。開発した教材は解説動画と練習動画の2種類7教材である。この教材をよさこい経験のある現職教員に評価してもらった結果、児童向けの教材として使用できることが明らかとなり、教師の指導用教材としても使用できることが分かった。

**キーワード** : よさこい, 小学校体育, 表現運動, 映像教材, 教材開発

#### 1. はじめに

現在小学校の体育科では、ダンスをはじめとした、表現運動が行われている。表現運動の中には、よさこい踊りが含まれている。「よさこい」は、高知県高知市が発祥の日本の民謡、もしくは、踊りのジャンルを指す言葉として使われている。小学校学習指導要領解説には民謡の例として、ソーラン節、春駒、阿波踊りが挙げられている。ソーラン節と同じ曲を使用する「よさこい」は学校現場では運動会などの行事でよく披露されている。この「よさこい」に取り組む学習活動を本研究では「よさこい活動」と呼ぶことにする。

学校現場でよさこい活動をはじめとした表現運動を行うことは、「教え合い」が成立しやすく、仲間との関係が深まることや、相互作用によって、自己の存在意義を認識したり、自分が上達したりするのを感じ、達成感を生むということが価値として挙げられている<sup>(1)</sup>。

一方で、よさこい活動は指導しにくいという課題がある。その理由として、畑野らは、「指導に取り組むときに一番障害になることに『生徒が動かない』『助言の仕方がわからない』『自分で動いてみせられない』『よい指導資料がない』」ということを挙げている<sup>(2)</sup>。また寺山は、「表現運動・ダンスでは他教科のように教科書がない」と指摘している<sup>(3)</sup>。表現運動やよさこい活動には、他の教科や分野とは異なり、教科書や確立された指導書のようなものがない。そのため、指導経験や実際の演舞経験がない教師にとってはこうした表現運動を指導する時に、その指導イメージが作りにくいという課題があると考えられる。

そこで本研究では、よさこい経験のない教師でも、よさこい活動の指導ができる、小学生を対象とした

よさこい活動の教材を開発することにした。

まず、既存のよさこいに関する教材を対象に、各教材の工夫されていた点、改善すべき点を分析した。この分析結果をもとに、小学生を対象としたよさこい教材の開発を行った。

#### 2. 既存のよさこい教材の分析

まず、どのような教材を開発すればよいかを検討するために、既存のよさこい教材の工夫されていた点と改善すべき点を調査した。

よさこい教材には、図書教材と、DVDやYouTubeなどの映像教材の2種類があった。図書教材の工夫されていた点は、例えを用いて説明されている点があげられる。図書教材の改善すべき点はポーズとポーズの間の動きを把握するのが難しいという点であった。一方、映像教材のうちDVD教材の工夫されていた点は、運動会当日の映像があり、よさこいの完成形を見ることができる点である。改善すべき点は、踊りを指導する過程を見ることができない点である。YouTubeの動画で工夫されていた点は、前後から動きの映像を見ることができた点である。改善すべき点は、そのままの言葉では子どもたちに伝わりにくい箇所や、振り付けに一貫性がない箇所が見受けられた点である。

以上の分析結果より、本研究で開発すべきよさこい教材について検討した結果、作成する教材は例えや具体的なイメージを用いた説明を加えた映像教材とした。その理由は、図書教材の改善すべき点であるポーズとポーズの間の動きや、動きのイメージの伝達が映像教材のほうが行ないやすいと考えたからである。

### 3. 小学生を対象としたよさこい教材の開発

本研究で開発するよさこい教材は、既存の教材の分析結果をふまえて、次の3点に留意して、教材開発を行うことにした。

- ・よさこい経験のない初心者でもわかりやすい教材にすること
- ・子どもたちにもすぐに伝わる、わかりやすい言葉や例えなどを用いること
- ・演舞の完成像ではなく、完成に至るまでの過程で必要となる指導の仕方がわかるような教材にすること

開発したよさこい教材では、ソーラン節をアレンジした南中ソーランを題材とした。南中ソーランは、全国の学校の運動会や体育祭などで広く踊られている踊りである。

南中ソーランのうち、基本となる振り付けと、教えにくい・難しいと思われる振り付けを抽出し、6つの動作に焦点をあてた教材を開発した。取り上げた動作は、「かまえ」「波」「網たぐり」「網引き・荷揚げ」「櫓こぎ」「網持ち」である。この6つの動作をつなげて、それぞれの動作について解説を行なった「解説動画」と、上述した6種類の動作を動作ごとに練習できるようにした「練習動画」の2種類計7教材を開発した。図1は、開発した教材の一例で、「解説動画」中の「かまえ」の動作を解説している。



図1 かまえ

### 4. 教材の評価と改善

開発したよさこい教材が、小学生でも理解することができるか、また小学生が踊りの練習をする際に使えるかを確認するために、現職教員を対象に教材の評価を実施した。この教員はよさこいの経験者であり、平成30年度の小学校の運動会で3・4年生にソーラン節の指導を行なっている。

評価は、解説動画1つと練習動画6つの計7つの動画を見て、2種類の評価用紙に各動画の評価を記入するという方法で行った。1つ目の評価用紙は、3

つの評価項目について、各動画が達成しているかを○×で評価するものである。評価項目は、「小学生が理解できる動画になっているか」「動画を見て小学生はその動きを理解できるか」「練習をする際に使える動画になっているか」である。2つ目の評価用紙では、動画ごとの改善点を、動き、映像に表示されるテロップ、その他の3視点より評価を行なってもらった。

前者の評価からは、すべての動画において、3つの評価項目が達成できているという評価を得た。この結果から、本研究で開発した教材は、小学生によさこいを理解させることができる教材であり、小学生が踊りの練習をする時にも使うことができる教材であることが明らかになった。後者の評価では、教材をよりよくするための指摘がなされていた。具体的には、各視点について指摘を受けた。すなわち、動きについては「児童が動画を見ながら一緒に踊れるとよいと思うので、鏡になって(左右反対にして)踊ってほしい」、テロップについては「ルビがあるとよい」、その他として「全体を通す練習が一番たくさん多く行われると考えるので、曲に合わせて全体を通した動画があるとよいと思う。」といった指摘がなされた。

上述した評価結果をもとに、教材の改善を行い、教材を完成させた。大きな改善点は、正面からの映像に、後ろから見た映像を追加した点である。このほかにも、動画の音量が小さい箇所や、テロップの漢字にふりがながなかった箇所について修正を行なった。

### 5. おわりに

本研究では、よさこい経験のない教師でも、よさこい活動の指導ができる、小学生を対象としたよさこい活動の教材開発を行った。開発した教材は、解説動画と練習動画の2種類7教材である。現職教員による評価の結果、児童向けの教材として使用できることが明らかとなり、教師の指導用教材としても使用できることが分かった。

本研究では、開発した教材を児童に使用してもらうことができなかった。今後は開発したよさこい教材を子どもたちに実際に使用してもらい、評価を行なってもらうことが課題である。

#### 参考文献

- (1) 金田美恵: “学校における集団活動の役割と意義に関する一考察-「よさこい踊り」の心理的・社会的特性に注目して-”, 滋賀大学大学院教育学研究科論文集, 第15号, pp.1-10 (2012)
- (2) 畑野裕子・茅野理子・三浦弓杖・松本富子: “ダンス指導実践に関わる現職教員の意識: 小学校を対象として”, 舞踊学, 16, pp.43-44 (1994)
- (3) 寺山由美: “「表現運動」を指導する際の困難さについて-千葉県小学校教員の調査から-”, 千葉大学教育学部研究紀要, 55, pp.179-185 (2007)